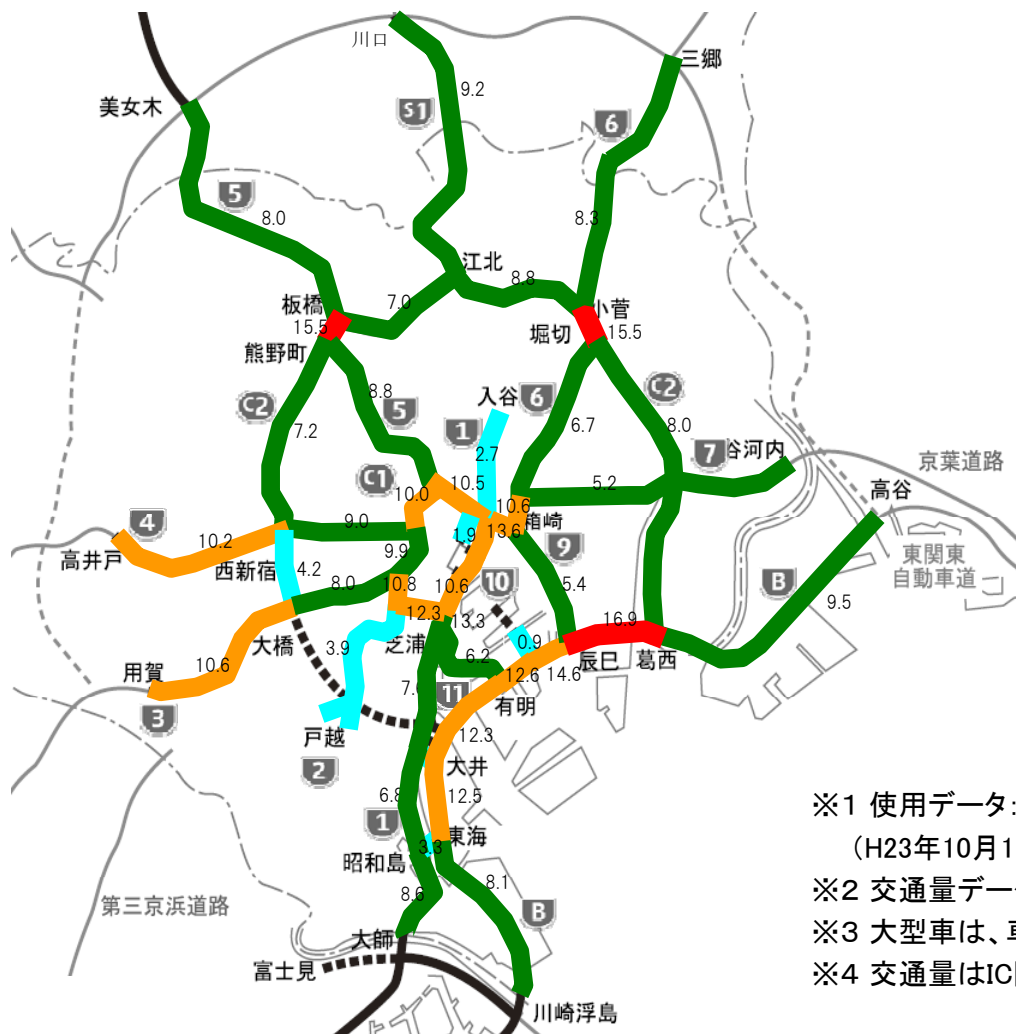


首都高速道路の交通量 [全車/平日平均]

- ① 中央環状線の交通量は、約7万から9万台。板橋熊野町JCTや、堀切小菅JCT部分は交通が集中
- ② 都心環状線の交通量は、10万台以上。特に、中央環状線が未整備の区間や放射方向路線が集中する箇所、交通量が多い



凡例	
■	: 15万台/日～
■	: 10万台/日～15万台/日
■	: 5万台/日～10万台/日
■	: ～5万台/日

※1 使用データ:平成23年10月平日(月～金)平均
 (H23年10月11日(火)～H23年10月21日(金)東名集中工事期間を除く)
 ※2 交通量データは、車両感知器を使用
 ※3 大型車は、車長6m以上の車両として集計
 ※4 交通量はIC間毎の交通量をJCT間で加重平均したもの

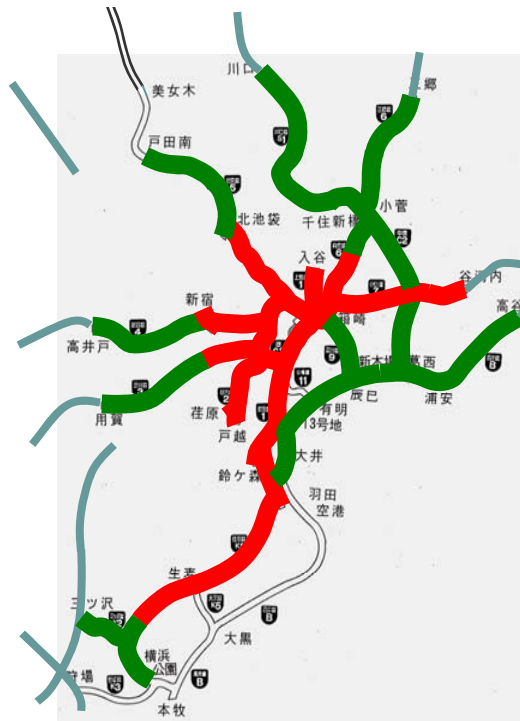
首都高速道路ネットワークの変遷

- 昭和37年の最初の開通以来、着実に整備を進め、現在301.3kmが開通し、首都圏の自動車交通の大動脈となっている



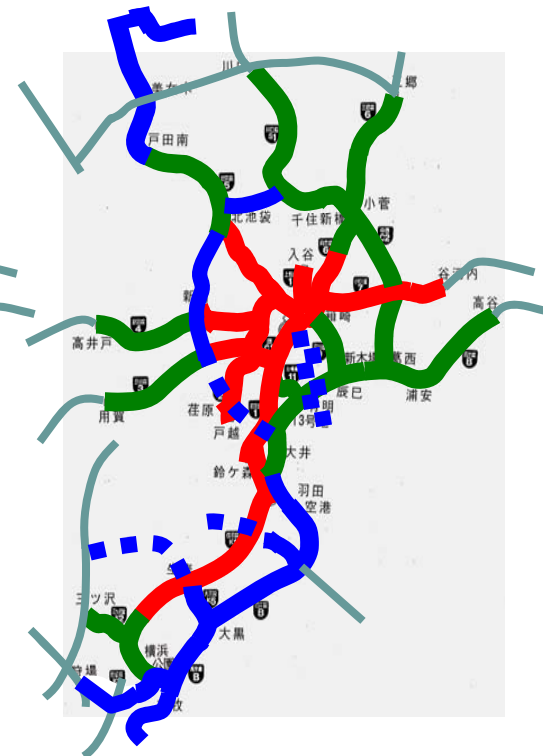
供用延長90km (S45)
通行台数37万台/日 (S45)

(昭和37年～昭和45年) ■
都心環状線と放射路線の整備



供用延長201 km (S63)
通行台数100万台/日 (S63)

(昭和46年～昭和63年) ■
都市間高速道路との接続



供用延長301.3 km (H23.4)
通行台数111万台/日 (H22年度実績)

(平成元年～) ■
中央環状線等のネットワーク整備

首都高速道路の料金改定の経緯

料金改定 年月日	料 金					
	東京線		神奈川線		埼玉線	
	普通車	大型車	普通車	大型車	普通車	大型車
	円	円	円	円	円	円
S.37.12.20	50	100				
S.38.12.21	100	200				
S.39. 8. 2	150	300				
S.43. 7.19			100	200		
S.43.11.28			150	300		
S.45. 4. 1	200	400				
S.49. 8. 1	250	500	200	400		
S.51. 8.12	300	600				
S.53. 3. 7			300	600		
S.55. 2. 5	400	800				
S.59. 2. 2			350	700		
S.60. 1.24	500	1,000				
S.60. 4. 1			400	800		
S.62. 9.10	600	1,200				
H. 6. 5. 9	<u>700</u>	<u>1,400</u>	500	1,000		
H.10. 5.18					<u>400</u>	<u>800</u>
H.14. 7. 1			<u>600</u>	<u>1,200</u>		
H24. 1. 1	対距離制へ移行					

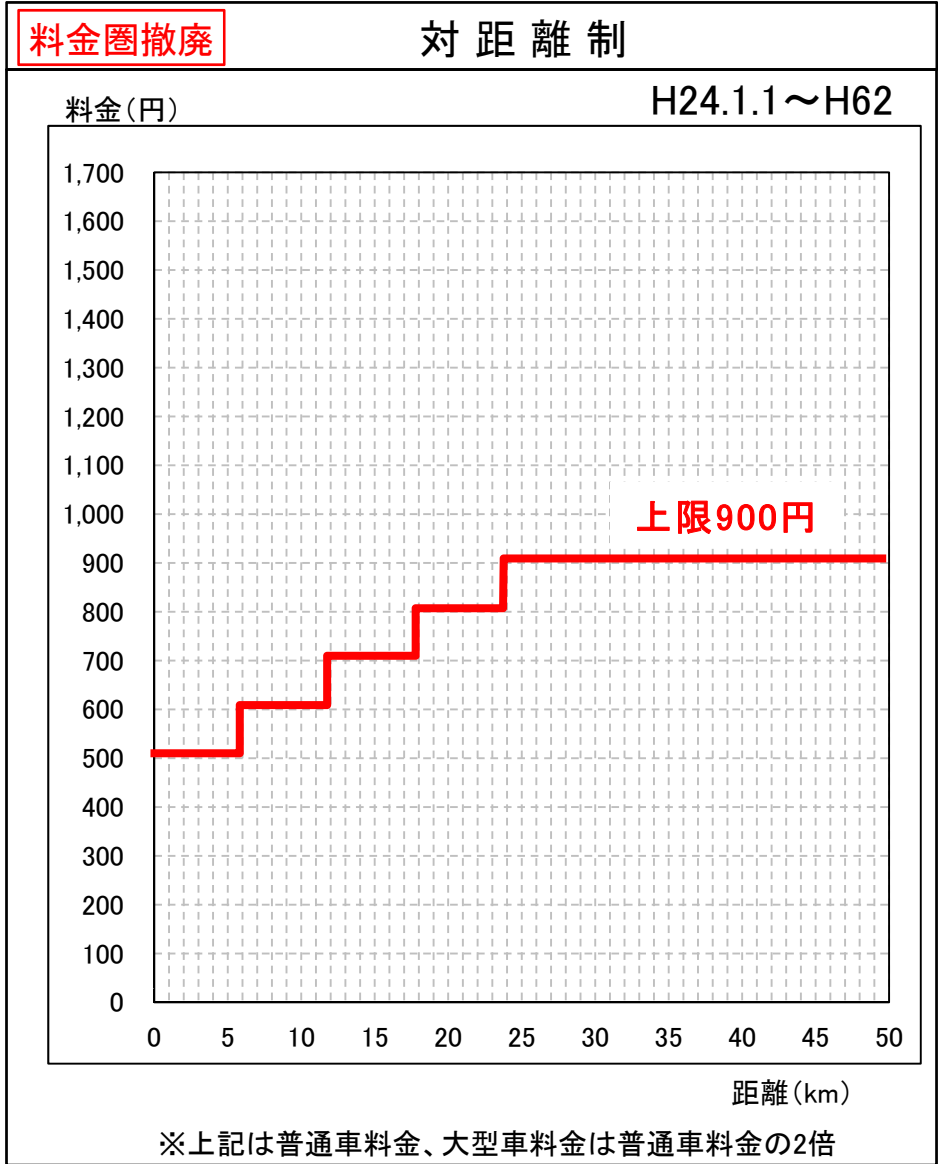
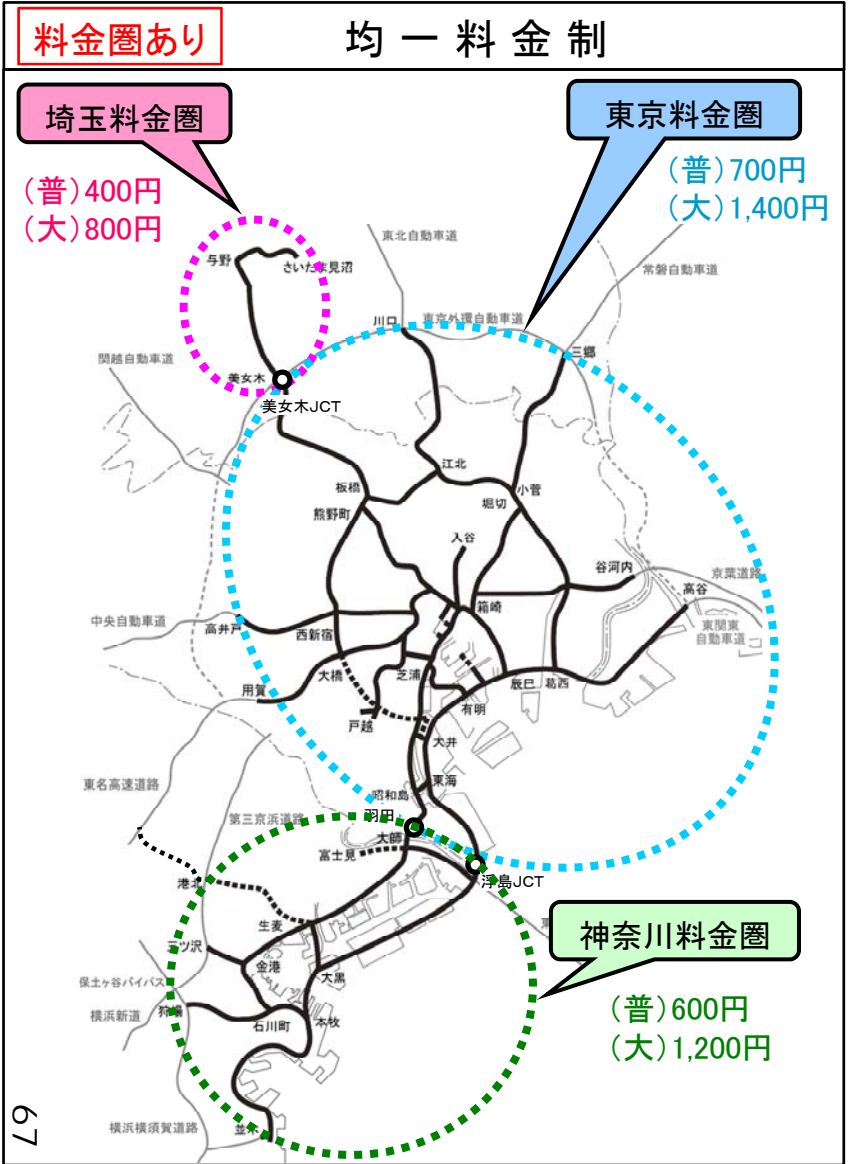
最初に開通した区間：[東京線]1号線(京橋～芝浦:4.5km)(S.37.12.20)

[神奈川線]横浜羽田空港線(浅田～東神奈川:6.8km)(S.43. 7.19)

[埼玉線]さいたま戸田線(美女木JCT～与野:8.0km)(H10. 5.18)

首都高速道路の新たな料金

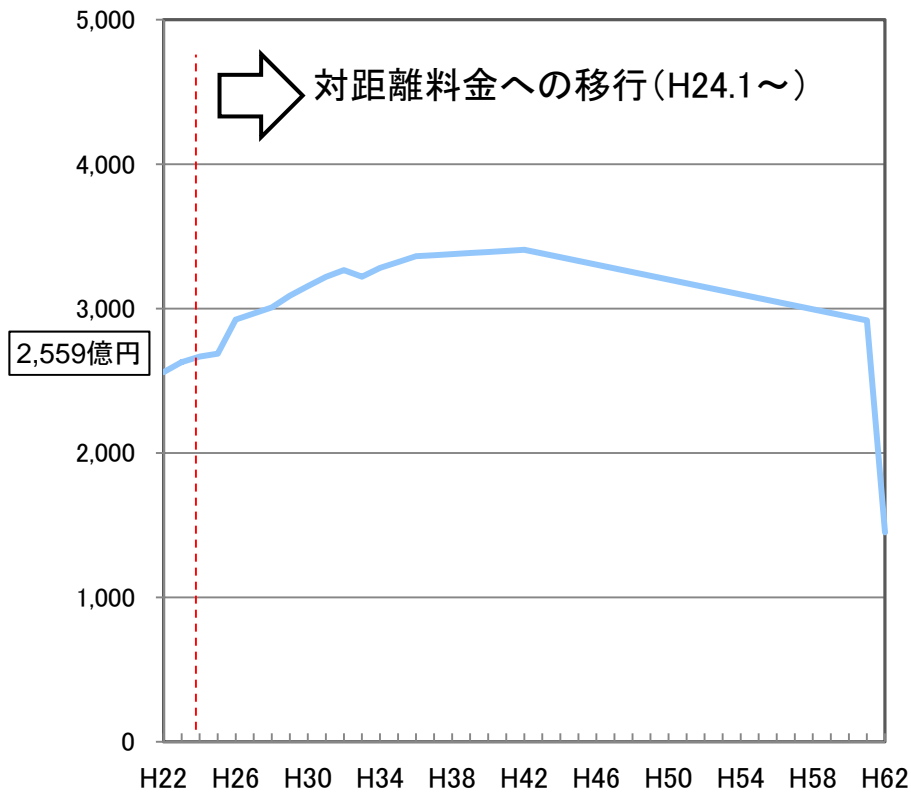
対距離制移行日：平成24年1月1日



首都高速道路の償還計画

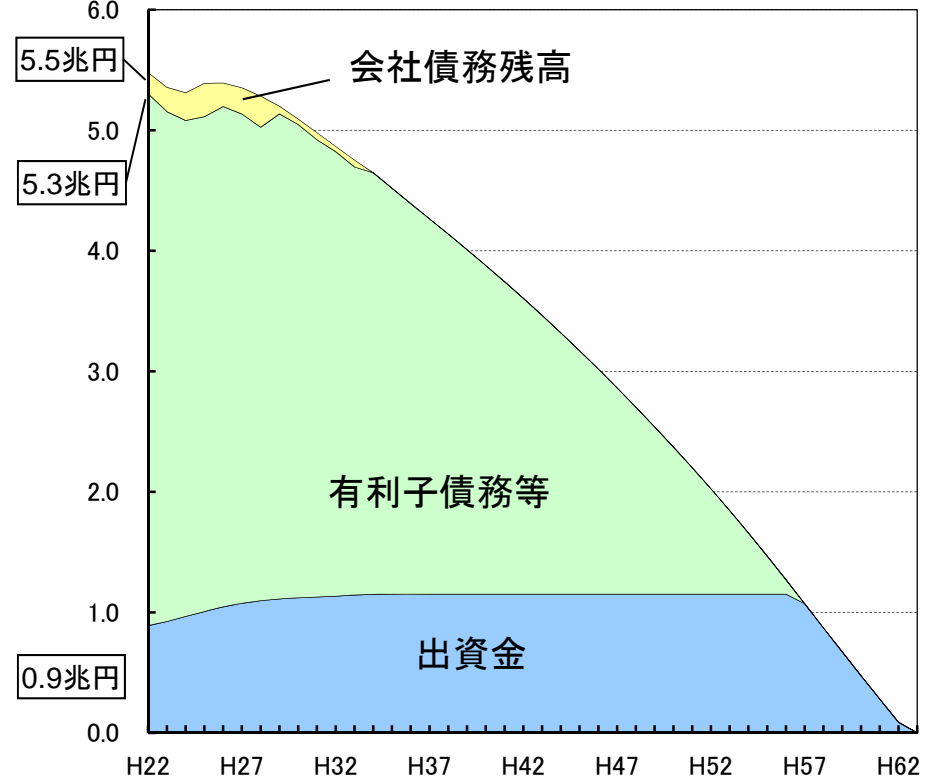
【料金収入】

(億円/年)



【未償還残高】

(兆円)



※H24.4協定ベース